



いずみのひろば

2019年10月号
日本基督教団堺教会
No.491 教会学校



「ハンナの祈り」

サムエル記上 1 章 9～20 節

きょう 今日、ハンナさんという女のお話です。

ハンナさんは、エルカナさんという男の人と結婚していました。二人の間には何年待っても子供が与えられませんでした。

ところが、夫のエルカナさんにはペニナさんというもう一人の奥さんがいました。そして二人の間にはこどもがいました。二人の奥さんがいるということは、今の日本では認められていません。しかし、昔の聖書の時代では、二人以上の奥さんを持つことが許されていました。

エルカナさんが、どうして二人の妻を持つことになったかは、聖書には書かれていませんが、ハンナさんに子供ができなかったことで、ハンナさんは大変悩みました。

ハンナさんの思いはどのようなものだったのでしょうか？

①「子供ができないのは神様から祝福されてない。」そして、「神様から見放されているのじゃないか？」

②「子供はできないことは夫に申しわけない。」「子供がいないことで夫に愛されないのではないか？」

③もう一人の妻ペニナさんと比べて、「自分はダメな女ではないか？」

④「こんな思いは人に言えない。」周りを傷つけるし、自分自身も傷つく。

こんな時どうしたらいいのでしょうか？ あなたならどうしますか？

ハンナさんは、お祈りしました。最初のうちは、「子供がほしい」との願いだけだったでしょう。「子供さえいれば、すべてうまく行き、幸せになれる」と必死でお祈りしました。次第に神さまへの祈りの中で、「子供さえいれば」の思いから「子供がいなくても神様に従って、すべてを神様にゆだねる」という信仰に変わっていきしました。祈りの中で、ハンナさんは神さまとの交わりを確信し、神様から大きな慰めと平安を与えられました。

さらにそのあと、ハンナさんのお祈りは聞かれ、神様からサムエルという名前の子供を授けられました。